仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.464

2025.11.19

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL: 022-276-2201　FAX: 022-276-2204
https://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系③

Fig.1 ハマシギとシロチドリ

どちらもチドリ目だがシギ科とチドリ科では採餌方法が異なる(Fig.1)

Fig.2,3 シロチドリ

歩き回り餌（ゴカイのなかま）を見つけて食べているところ(Fig.2,3)

Fig.4　ダイゼン

チドリ科で 単独で歩き回りながら餌を探している(Fig.4)

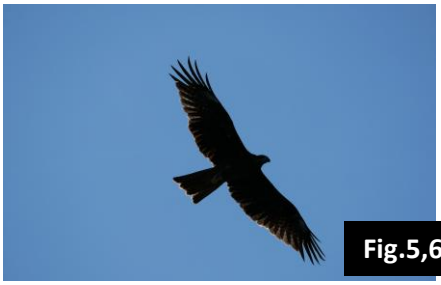
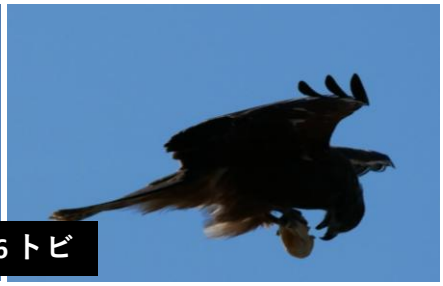
Fig.5,6 トビ

旋回しながら餌を探している(Fig.5)

ネズミのなかまを捕えている（Fig.6）

Fig.7 カワウ

七北田川河口の洲の周辺で群れている(Fig.7)

Fig.8 マガモ

先月の数倍の数が見られ飛来ピークを迎えたとみられる（Fig.8）

Fig.9 コクガン

近くに豊かなアマモ場がないと生息することができない（Fig.9）

調査日　2025年11月19日（水）10:30～11:45

干潟でよく見られるシギやチドリのなかまはチドリ目という同じグループに属している（Fig. 1～4）。しかし、シギ科とチドリ科でそれぞれ採餌方法は異なる。シギのなかまはくちばしが長い種が多く、泥の中にくちばしを差し込んでゴカイなどを探り当てる方法で採餌する（Fig. 1左）。チドリ科はくちばしが短い種が多く、走っては止まりを繰り返しながら視覚で見つけて採餌をする（Fig. 1右とFig. 2, 3）。ハマシギやシロチドリは数羽で一緒に行動していたが、ダイゼンは単独で餌を探しながら歩き回っていた（Fig. 4）。

日和山付近の上空を旋回していた数羽のトビ（Fig. 5）。そのうちの一羽がネズミのなかまを捕えて空中で食べている様子を偶然撮影することができた（Fig. 6）。七北田川の河口には百羽を超えるであろう数のカワウが群れをなしていた（Fig. 7）。群れの中にはダイサギやコサギ、アオサギも数羽混じって採餌している様子が見られた。潟湖の岸沿いでは10月調査の際の数倍の数に増えたマガモの群れ(Fig. 8)と十数羽のコクガンが見られた（Fig. 9）。コクガンは国の天然記念物に指定されており、宮城県でも絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。蒲生干潟は毎年コクガンが訪れる貴重な場所として知られている。　（伊藤勝彦）